

## 【編集後記】

本誌は、立教大学日本学研究所の活動とその成果を発信する媒体のひとつである。本号には、二〇一四年度の活動・成果の一部として、二〇一四年度国際シンポジウム「日本と東アジアの〈仏伝文学〉と天竺世界」の開催概要と各講演・発表の要旨、例会シンポジウム「〈異域〉をめぐる文学——異域から日本を考える——」に基づく論文四編、そして一般投稿論文四編を掲載することができた。ご寄稿くださった各位に心より御礼申し上げたい。

本年度の編集担当となり、これまでの本誌の歩みをふり返り、編集業務を見なおすなかで、今後取り組みべき課題を少しずつ把握しつつある。改めるべきところは改め、本研究所に関わるすべての方たちとともに、本誌をますます魅力的なものにしていく道を模索していきたい。

本誌もまた変化の時を迎えている。そうした事情ともかわるが、本号の編集過程では、諸方面の多くの方々にさまざまなご迷惑をおかけしてしまった。末筆ではあるが、ここに心よりお詫び申し上げたい。あわせて、各位から賜った多大なご協力で深く御礼申し上げる。(A)

長かった関東甲信の梅雨が明け、いったんは熱帯低気圧になった台風12号《ハロラ》が復活して日本に向かって北上、気候も世相もなんとなく不安定である。本誌の編集作業に精を出している(?) 今日もまたこのところの猛暑で汗ばんだ手にゲラが貼りつく。

前号に引き続き編集補助業務を担当し、本誌の校了をめざす二度目の夏を迎えたわけだが、すこしずつ雑誌が形になっていく過程は、こうした作業をする者しか味わえないひそかな喜びである。昨年度開催した

国際シンポジウムと研究例会から生まれた成果にくわえ、四編の投稿論文も掲載できた。今号も充実した誌面になったことは、ひとえにご寄稿くださった方々および関係各位のおかげであり、篤く御礼申し上げます次第である。

本年度も、多彩な研究例会やシンポジウム等が企画されており、それらの成果が次号に活かされることも期待される。所員・研究員の皆様のご支援、ご協力を賜りながら、より一層充実した誌面にしていきたい。(G)

## 立教大学日本学研究所年報 第十三号

二〇一五年八月二十五日印刷  
二〇一五年八月三十一日発行

編集・発行 立教大学日本学研究所

東京都豊島区西池袋三三四一

一三三号館二階B二〇五

TEL/FAX: 〇三-三九八五-二六一七

E-mail: nihongaku@rikkyo.ac.jp

発行人 深津行徳

印刷 株式会社絢文社